

平成 25 年 1 月 19 日

お客様各位

株式会社 山喜農園  
新潟県魚沼市原 1280-1  
TEL. 025-794-2455  
FAX. 025-794-4168  
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp  
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

## **球根情勢報告**

新年あけましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願い致します。

新潟県魚沼地方は、例年より積雪量が年初としては、かなり多いようです。  
地元、堀之内地区においては、震災復興事業で増設された耐雪型温室の中で、山菜を中心とした野菜の生産が行われています。周年経営を目指して、様々な工夫がなされています。来月からいよいよ 12 年産百合球根定植も始まります。

弊社におきましては、10 年に 1 回の大規模な冷蔵庫改修工事を行っております。(施設利用組合分)

この為、2 月末～3 月上中旬までは横浜市、㈱日新様の冷蔵庫にて荷受、及び保管をして頂き、配送業務も横浜を起点に行っております。(12 年産ワヅガ産についてのみ。11 年産ワヅガ産・12 年産 S.H 産は新潟自社倉庫より通常通り出荷中。)

3 月中旬以降は、基本的に全量新潟に移送し、通常通りの物流体制に戻ります。

ただでさえ、船足の遅れと輸出作業の遅れ(後段説明します。)が発生している年なのですが、㈱日本郵船様の場合、横浜港到着のスケジュールが良くない為、さらなる遅れが発生してしまいました。皆様には、大変ご迷惑をお掛けいたします。

冷蔵庫の大規模改修は、冷蔵保管を安定的に行うには不可欠な事業です。  
最新のユニットへの変更も同時に行われます。  
LED 照明などを設置して作業環境の改善に、最新の冷蔵ユニットを設置して、電力コストを下げたり、温度管理精度をさらに改善していくことで、安定した物流体制確保につながると考えております。

重ね重ねご迷惑をお掛けしまして申し訳ありませんが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

施設利用組合冷蔵庫においては、毎年のメンテナンス費用の数百万円他、この¥60～70,000,000 を超える大型改修工事を行っていきます。建設から今回が 2 回目の改修工事となりました。  
早いものです…。

## **ワヅガ産百合**

### **12 年産ワヅガ産**

#### **\* 球根入荷の遅れ**

#### 鉄砲/A.H/L.A 系

昨年 11 年産は、11 月末までに約 3,700,000 球の百合球根を出港させることが出来ました。  
本年 12 年産においても、A.H/L.A が中心となる 11 月出港期ですから、同様に約 3,900,000 球の積み出しに成功しました。

前年より積み出しは多いのです。

11年産では、このうち約1,890,000球が12月中に検疫業務・通関業務が実行できたのですが、(内貨貨物にできた。)本年12年産は、約270,000球しかそれらの業務が実行できませんでした。

輸送速度が遅い為、12月には間に合わず1月到着にずれ込んでいるのです。

13年産については、これを従来通り、清水港、又は神戸港に変更すれば、少なくとも11年産並みの年内『内貨貨物』量へは、回復する予定です。

#### 0.H/O.T系

船積みが遅れています。

A.H/L.Aの欠品もかなりひどい状況でしたが、それらについては、まずまず落ち着いた状況に回復しています。(白と赤が異常に少ない。その分、鉄砲百合は増加している。これで良いのか?)

残念ながら、0.H/O.T系の欠品確定作業が遅れています。

これは農家からの納品作業が、年末/年始のカンパ-の巡り合わせの悪さから起きる作業遅れに加えて、『中国向け』輸出検査方法の変更により、輸出検疫作業全体に遅れが発生している為、輸出国別欠品割合の確定作業を終了するのに例年以上の時間がかかってしまっている為、と思われまます。

尖閣問題に対してのV.A.S輸出禁止のように、突然の検査方法の変更が要求されてしまった様子で、中国との取引の難しさが間接的に日本市場の流通に影響が出てしまったというお話です。

A.H/L.Aではこの問題が出ないのは、要するに中国がほとんど輸入していないから。

一方、0.H/O.Tについては、いまや中国市場消費抜きでは、世界中の球根生産産業が立ち行かないだけの球根消費国に育ってしまったという事の様です。

対日主要輸出業者においては、それでも『プライオリティ No.1』、『日本向けを最優先』に、少なくとも確保作業は行っている様ですが、使用サイズに若干の違いはあるものの、球根品質に対しての要求は、日本が求める水準に限りなく近づきつつある様に見えます。

この為、需要が重複する品種については割合確定に時間がかかる。

球根品質バルというポイントでは、韓国よりむしろ中国・ベトナム・台湾の方が進んでいるように見えます。(結果、日本市場で良い評価を受けている輸出業社が、それらアジア諸国でも活躍するという方向性の様です。)

『作況の悪さ』からくる欠品報告は、さらに1~2週間ほど続きます。

今後掘り取り期の遅いカブランカ・シベリア・シラ・レクチャーなどで大きな穴が開きそうです。

週明け20~21日には『最新在庫表』と『納期確定新規受注可能在庫表』をお送りします。

ご迷惑をお掛けいたしますが、対応のほどよろしくお願い致します。

\*主要ゆり輸出業社の日本市場からの受注量は、12月末の段階で、前年取扱総数の92~95%くらいとなっていた様子。(伸ばしている輸出業社もある様ですが…)

その後、新規受注はあるものの、それを上回る欠品が発生しています…。

11年産の日本の輸入量へは到底到達できない作況となっている様ですし、それの方が平和でしょう。(Plamv等の品質問題を考えれば、最後の10~20%の調整が最も難しいはずですもの!!)

弊社の場合、1月19日現在、あまりにも酷い欠品状況の為、一旦95%まで進んだ確保率が、91.5%まで下がってしまいました。

\*12年産南半球産は、11年産よりやや増加した様ですが、1~6月の切花相場が堅調に推移することを願います。

\*福山さんが素晴らしいタイトルの歌を作ってくれました…。『誕生日には真白な百合を』大変感激しています。

## 南半球産百合球根

### 12年産

球根出庫は、順調に推移中。弊社の場合、当年の球根出庫（切花農家向け）は、10月が最も多かった様です。

球根入荷については、N.Z産は9月が中心。C.H産は10月が中心となりました。（C.H産はやや遅かった。）

本当は、入荷順が逆になれば良いとは思いますが…。地理的要因と、輸送速度の問題があるので、やむを得ないと思います。

後半の球根出庫は、日本側の天候不順によりやや遅れ気味となっている様です。（寒過ぎ！）

N.Z産は例年よりやや力不足。LMOV問題は激減。Plamv問題は今後発症しそう。（球根がやや力不足。それはエネルギー切れを起し易い。日本が寒い等の原因により…。）

C.H産は例年より力がある。近年では、極調子が良い、品質の良い年となりそう。

N.Z産は『期待値』の高さに対して、やや残念な状況なのに対し、作型を制限して使用しているC.H産が良い仕事をすると、『自分の息子の成績が上がった。テストの結果が良かった。』みたいに喜ばしい…。

従来N.Z産の力は、早い作型より遅い作型の方で力を発揮すると考えられます。早期作型・後期作型での結果を見極めたいところです。

12年産の球根品質については、球根栽培時点での年次の気象変動から発生している要因が主と考えています。

N.Zの天候はパワフルな球根が作れなかった。

C.Hは、パワフルな球根が作れる天候だった。

N.Z生産地については、年次の気象変動にも耐えられる生産体制を確立して頂きたいものです。（簡単ではないですが…。）

C.H産の品質改善は素晴らしい。後半戦でのPlamv問題、後半作型での仕事ぶりを見極めたいところです。（それにしても9月/10月、入荷がやや遅い。1月/2月納品分では、発根力の関係から、低温・低日照切花生産地域において使える球根産地・品種が限定されてしまうのはもったいない。）

### 13年産

近日中に品種リストを作成・送付いたしますので、ご確認ください。『速報版』と捉えてください。

J.P/P.Qフリーロットの確認。コンディション確認等、まだ確認作業は完全に終了していません。輸出業社から供給された情報を基に作成しましたが、精度はイマイチです。（例えば、W.S.Bは日本向けロットが無い？確認中。但し、同一品種がVIAL社によって生産？）

1月19日現在、価格交渉は一切行われておりません。

1月19日現在、品種ごとの流通可能球数情報も一切確認できておりません。

（一部V.Z社R.トリティ、VWS社取扱いL.Aは協議終盤を迎えつつあります。）

『当方からの見込み需要数』を、各輸出業者に伝えつつあるといったレベルです。

12年オランダ産欠品調整作業と並行して作業を進めておりますので、輸出業者に若干の作業遅れがある様です。

1月22日から1月27日までN.Zに出張して参ります。

定植後、ここまでの生産環境は例年並みかやや乾燥気味なので、農家レベルでは肥大を心配しているとの事。

そのくらいの方が球根に力があって良いと思います。

C.H出張の予定はまだ立てていませんが、可能であれば4月中旬くらいに行きたい。(Plamvが見たいので、3月に行きたいけど日程的に厳しい…。)

ロシア/オーストラリア地区はまずまずの様です。

バルティック/オーストラリア近郊地区(ソネ社、PUGS, WSb, VIAL など)は11月に遅霜あたってしまい、O.T系を中心に被害が出ている様子。

既にソネ社は、栽培面積を大きく減少させて、品質改善に努めていますが、オーストラリア社も昨年比較で、約6,000,000球分、生産球数を減少させているとの事。約20~25ha?

シベリア/オーストラリア/サンダーなど…。Plamv問題とアジア向け新品種増産。(残念ながらあまり日本向け品種ではないみたい…。でも、その中から見つけて来なければ…。)旧品種を減産させる生産品種更新の為、過渡期に入っている様です。

12年産の結果は気になるところですが、弊社としての取扱いの方針は、

『一喜一憂』しない。『ブレない』。

各々の球根生産地と連絡を取り合いながら、

各々の輸出業社の世界販売との関係を意識しながら、

『球根生産地を守る』『日本向け品種の生産を継続してもらう』『球根品質の向上を目指してもらう』という取引を進めたいと考えています。

球根業社は、球根栽培農家と10~30年の長い付き合いを大事にするみたい。

球根の商売ってそういうものだと思います。

国産鉄砲/アイリス/フリージア/チューリップ/グラジオラス/百合、全部そうでしたよね!

よろしくお願ひ致します。

詳細はお問ひ合わせください。

森山隆



<http://www.lily-promotion.jp/>  
私共はLPJの趣旨に賛同し  
協力・応援しています